

令和元年度大分県学力定着状況調査ならびに

令和元年度全国学力学習状況調査の結果と分析について

令和元年 8 月 20 日
由布市教育委員会

本年度、4 月 23 日に実施された「令和元年度大分県学力定着状況調査」ならびに、
4 月 18 日に実施された「令和元年度全国学力学習状況調査」の結果と分析についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

「令和元年度大分県の学力定着状況調査」＜図 1 参照＞

小学校では、第 5 学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○ 5 年生では、「理科の活用」を除く全ての教科で「目標値^{※注 1}」を超えました。

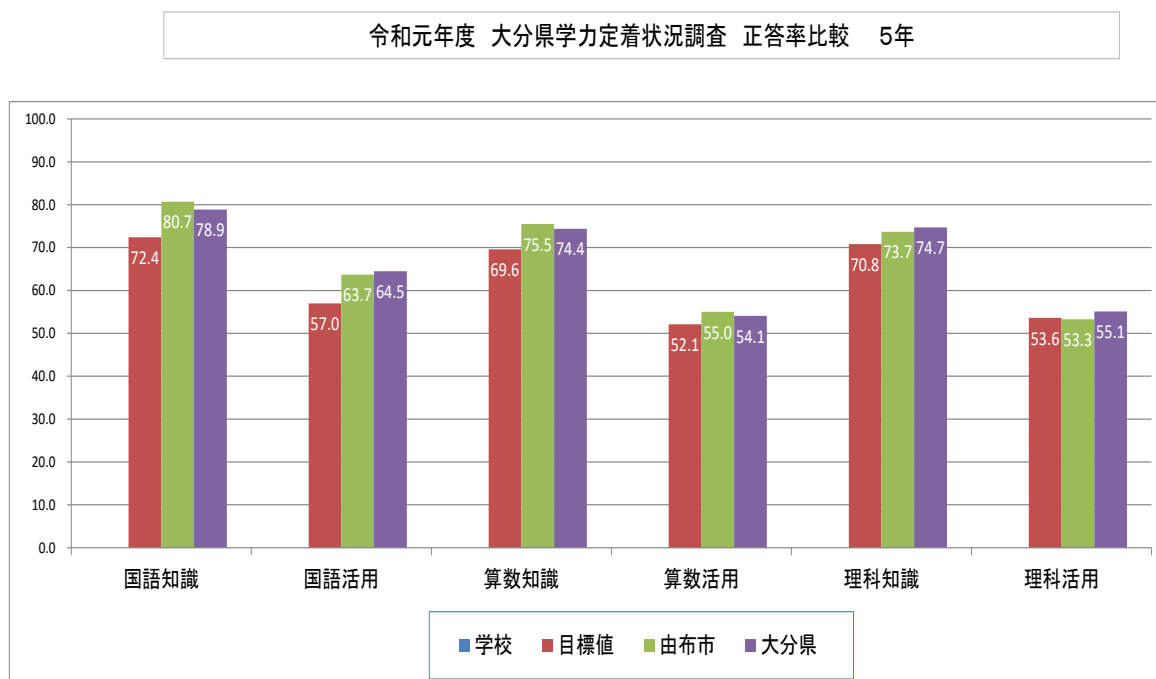
○ 「国語の知識」「算数の知識」「算数の活用」については県の数値も超えています。

○ 状況的には、少しずつではありますが着実に向上しているといえます。

※注 1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。

多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

＜図 1＞ 教科別正答率「小学校 5 年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「令和元年度全国学力学習状況調査」＜図 2 参照＞

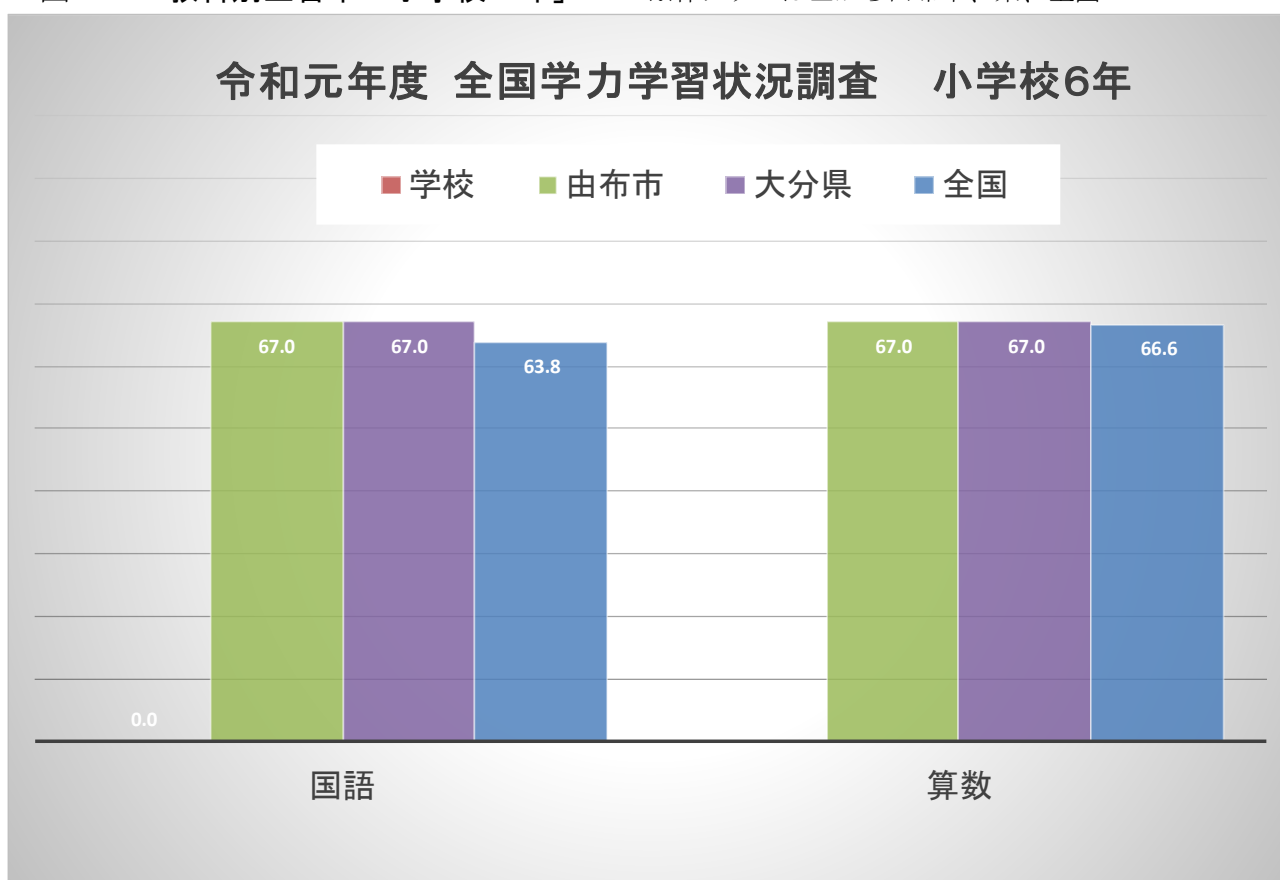
小学校では、第 6 学年で、国語・算数の調査が実施されました。

○6年生では、国語・算数ともに全国値を超えました。

○大分県と比較しても同水準となっております。昨年度末に実施した由布市の独自調査から考えても着実に向上しています。

<図2> 教科別正答率「小学校6年」

※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から引き続く学力向上

由布市においては、小学校1年生から将来を見据えて、子どもに学習の技能をつけていくということをめざして進めてきました。その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）が取り入れられ、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

一方で、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、算数における計算力（スピード）をつけることについては依然として課題があり、学力調査の当該学年だけに対策をとるのではなく、組織的・計画的かつ長期的な取組を進めてきています。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善

問題を詳しく見ると、国語は、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」こと。算数は、「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」「示された除法の式の意味を理解している」が課題であることが浮き彫りになりました。改善策として、国語では、「児童が読む目的を明確にもつための単元プラン作成と自分の考えを持つ場の設定」をしていかなければなりません。算数においては、「式の意味を説明し合う活動（式読み）」や「求め方を文章で書く活動を」取り入れる必要があります。日々の授業において、取り入れることができるものと考えます。また、これらの課題については、授業改善のために取組をしている学力向上支援教員や習熟度別授業推進教員の公開授業の中でも提案していきます。さらに、各校においては指導法工夫改善教員および指導教諭といった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

(2) 中学校における学力の状況

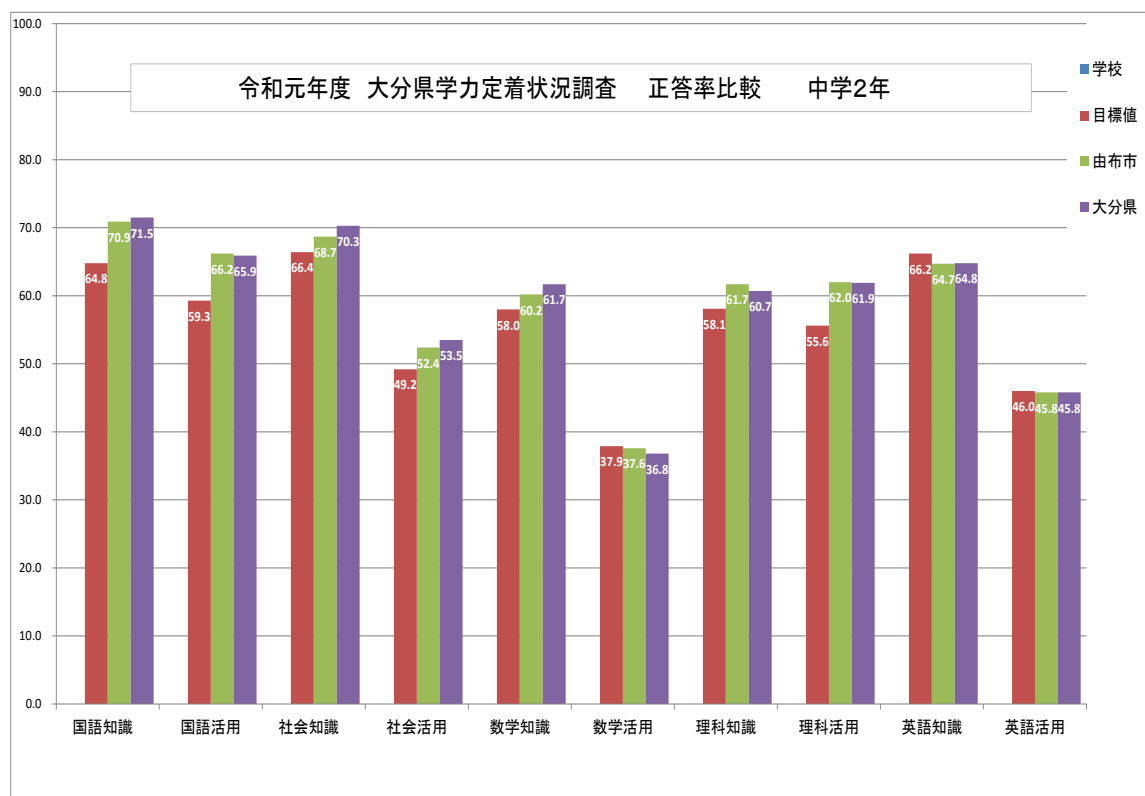
「令和元年度大分県の学力定着状況調査」＜図3参照＞

中学校では、第2学年で国語・社会・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○2年生では、数学の活用、英語の知識・活用を除き「目標値※注1」を超えました。

○総体的に「活用問題」への対応について、さらに取組を進める必要があります。

＜図3＞ 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県

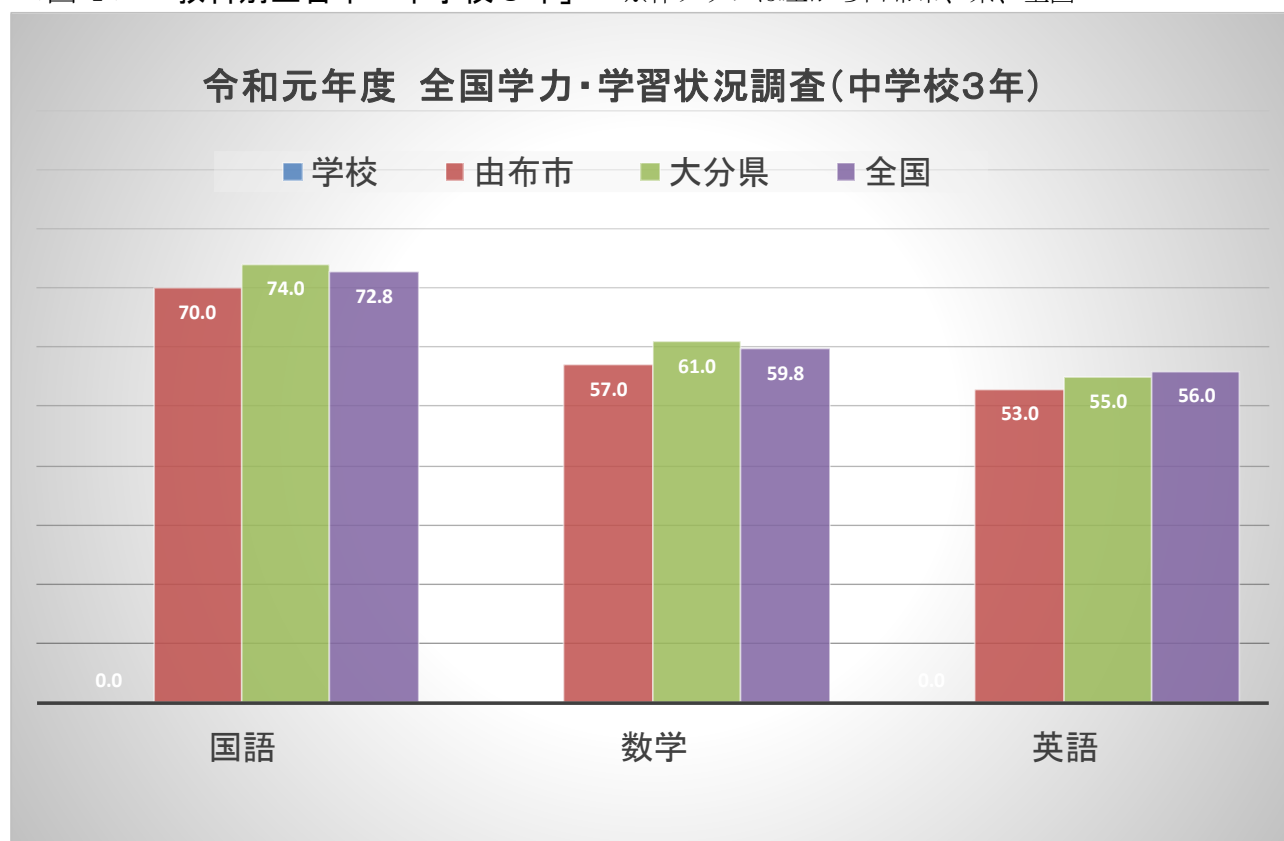


「令和元年度全国学力学習状況調査」＜図4参照＞

第3学年で、国語・数学・英語の調査が実施されました。

○3教科とも県や全国の値を下回りました。国語については、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」「話し合いの話題や方向をとらえる」「封筒の書き方を理解して書く」こと。数学は、「事柄が成り立つ理由を説明すること」「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的をとらえる」「資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。英語は、「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取る」「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解すること。以上についての対策を講じていく必要があります。各教科とも、夏の教科部会において分析し、全部員で共有したので、2学期・3学期の授業において場の確保を行います。

<図 4> 教科別正答率「中学校 3 年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、小学校から引き続き中学校へ学習の技能をつけていくということが今一番の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、数学における計算力（スピード）をつけることは、現状では改善できていません。このことは、小学校段階で解決すべき問題であり、それによって中学校の改善が見られると考えます。

③ 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

今回の結果において、上記に示した通り、各教科とも生徒が苦手とする学習が明らかになりました。国語については、「根拠を明確にして書く力」の育成、数学は「数学的な表現を用いて説明する力」の育成、英語は「正確に読み取る力」の育成です。各教科とも改善に向けて、授業を構築していきます。

中学校では、さらに学力向上支援教員による公開授業研究会の充実を図り、組織的に取り組めるようにしていきます。

(3) 今後の課題

＊県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- 学校全体で統一した取組
- 授業改善の充実
- 家庭学習・補充学習の丁寧さ

＊上記の３点については、継続した取組が必要になります。成果が見えられたところもいくつかありますが、さらに具体的な取組を行っていくことを考えています。

特に、小学校・中学校の連携、および、学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組を検討中です。

昨年度からの取組で、児童生徒の授業評価を授業改善につなげていく取組を進めています。子ども自体が授業に主体的に向かうようになってきており、今後いっそうの効果が期待されます。

2 意識調査結果の分析

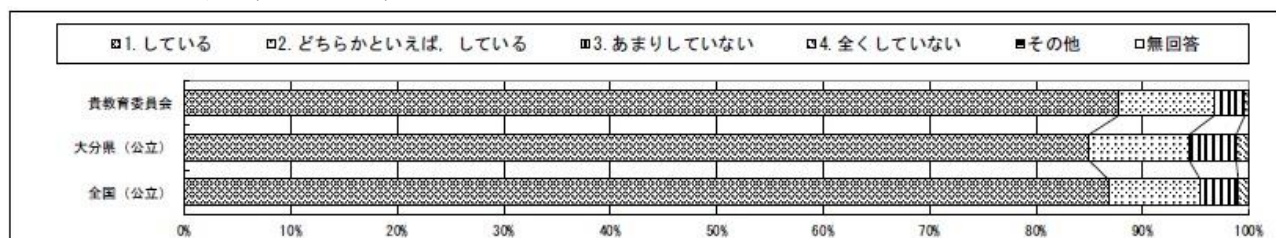
(1) 全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。今年度も質問項目が変わったので、取り上げる事項を若干変えて分析します。

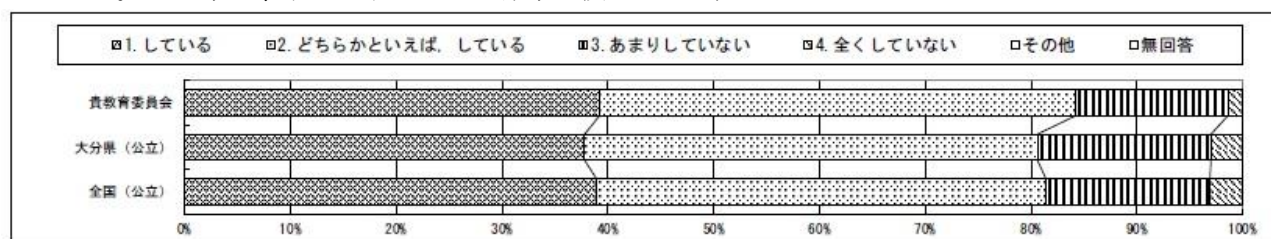
「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

① 基本的な生活習慣について

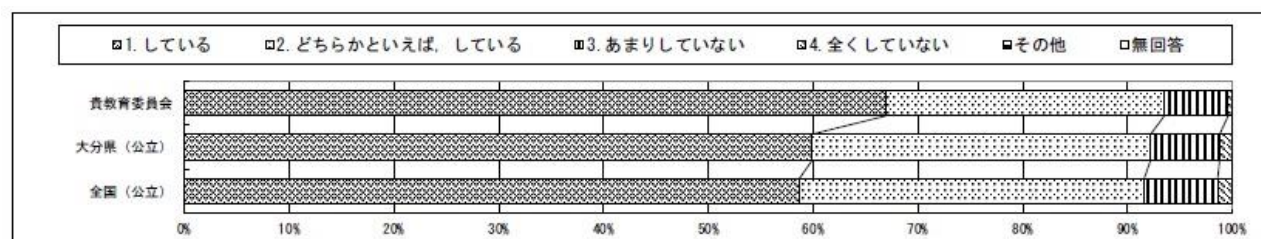
Q1 朝食を毎日食べていますか



Q2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



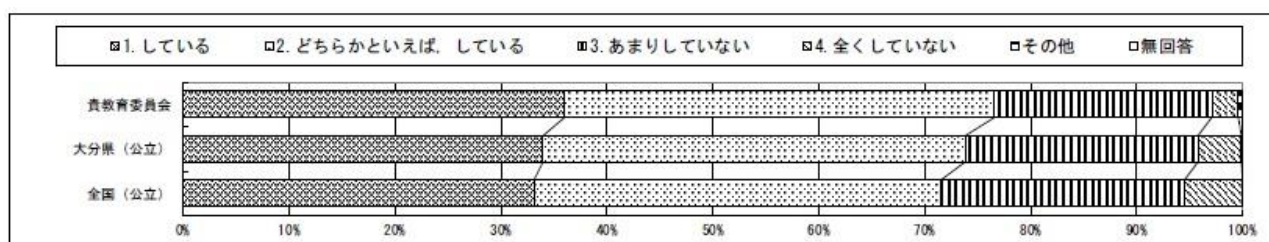
Q3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



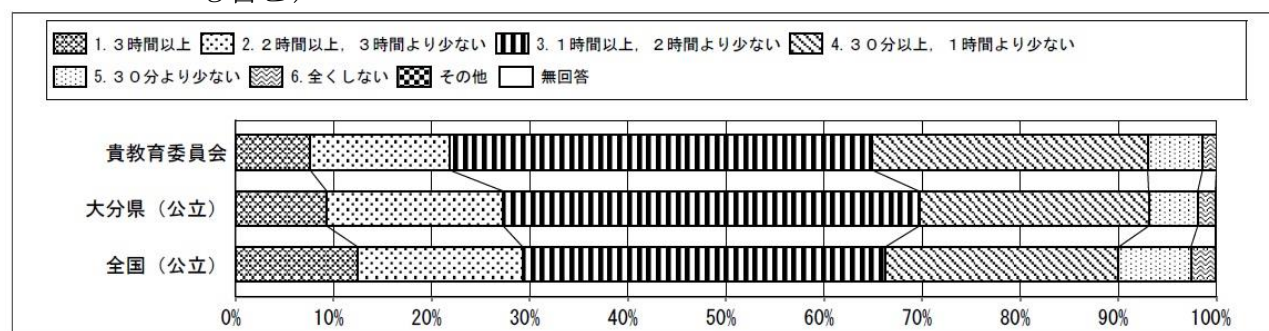
* 基本的な生活習慣は県や全国と比べてよい割合が多いですが、すべての児童が充実した学校生活を送るためにも、引き続き学校を通じて啓発活動をしていく必要があると考えています。

② 学習習慣について

Q 4 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



Q 5 学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

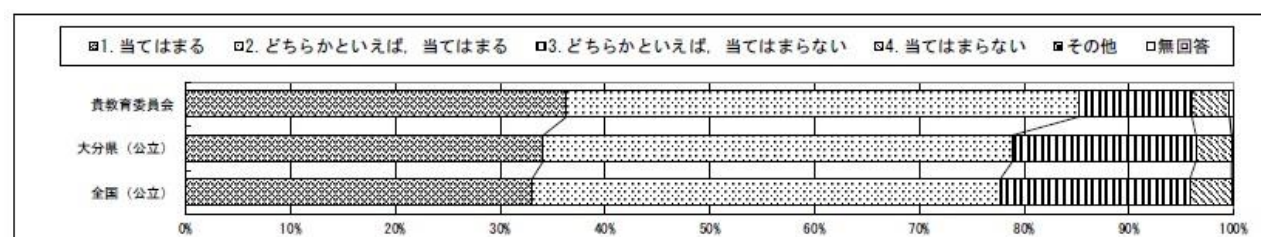


* 計画を立てて学習する児童の割合が多いです。

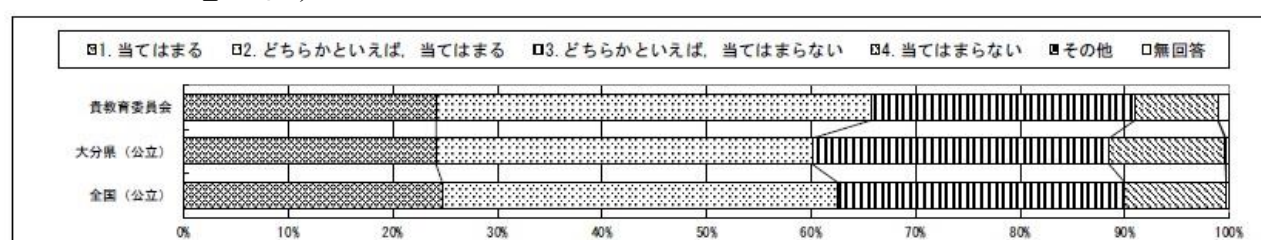
* 学校の授業以外の学習時間(平日)が、1時間未満の割合が多いことがわかります。

③ 授業改善について

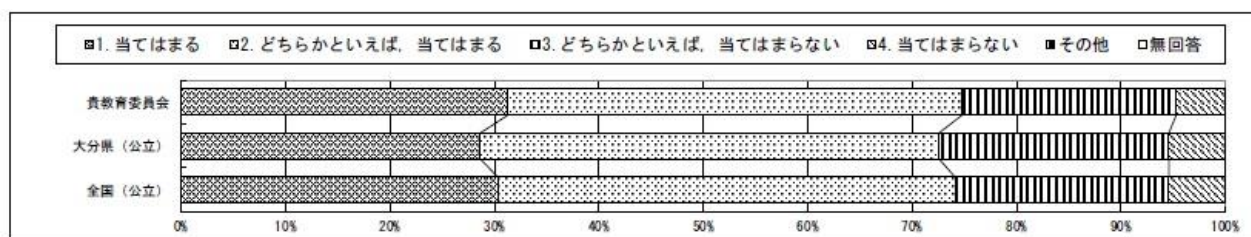
Q 6 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



Q 7 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



Q 8 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思います

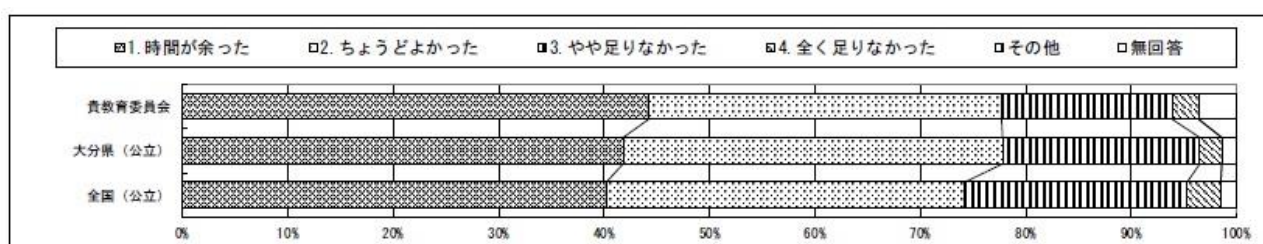


＊ 授業改善に関しては、昨年度から質問項目が変わり、課題の解決に向けて、自主性や協働性を問う質問になりました。特に話し合いの意義や効果を重要視しています。「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、今後も授業改善の重点にしようと思います。

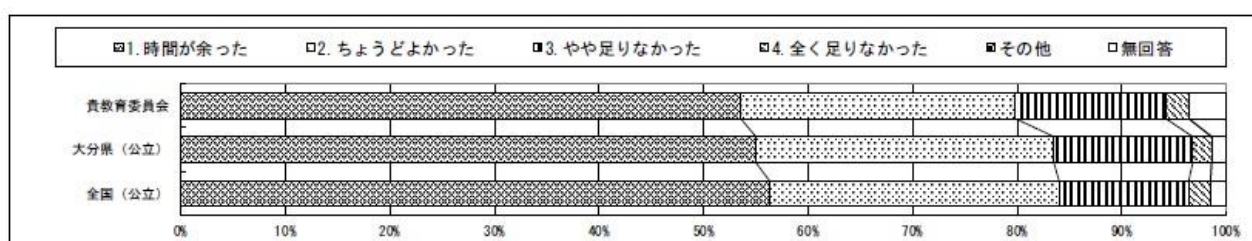
子どもたちの意識を見ていると、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」「工夫して発表する」ことについて、意識して学習している割合が多くみられました。「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすること」については、県や国とほぼ同じ割合です。

④ 解答時間について

Q 9 解答時間は十分でしたか（国語）



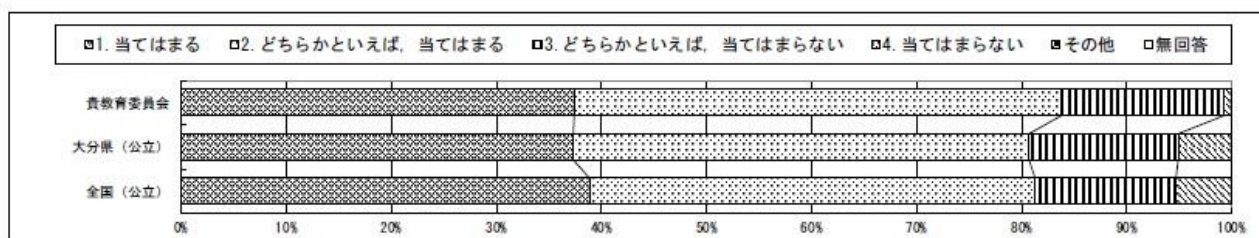
Q 10 解答時間は十分でしたか（算数）



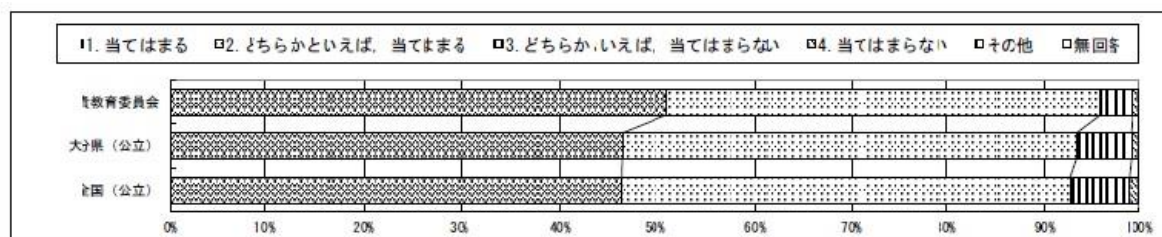
＊国語、算数ともに「無回答」の割合が多いのが問題です。

④ その他の項目について

Q 1 1 自分にはいいところがあると思いますか



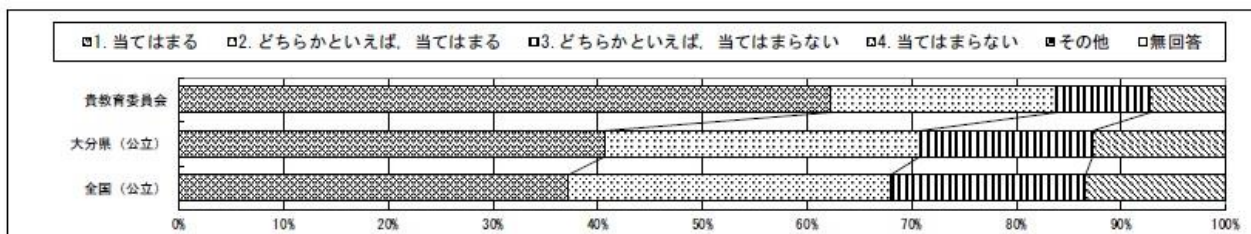
Q 1 2 学校のきまりを守っていますか



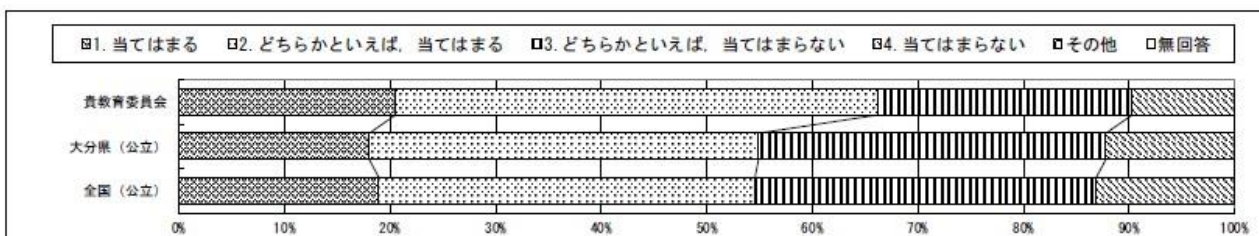
* 「自分にはいいところがある」の調査から、自分の良さを感じることができている割合は高い。

* 「学校のきまりを守っていますか」については、守っていると意識している児童が多い。学校ごとに差があるようなので、その要因をはっきりさせる必要があります。

Q 1 3 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

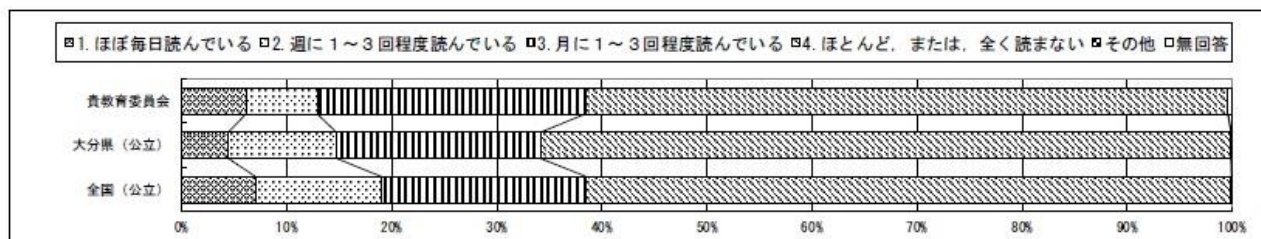


Q 1 4 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

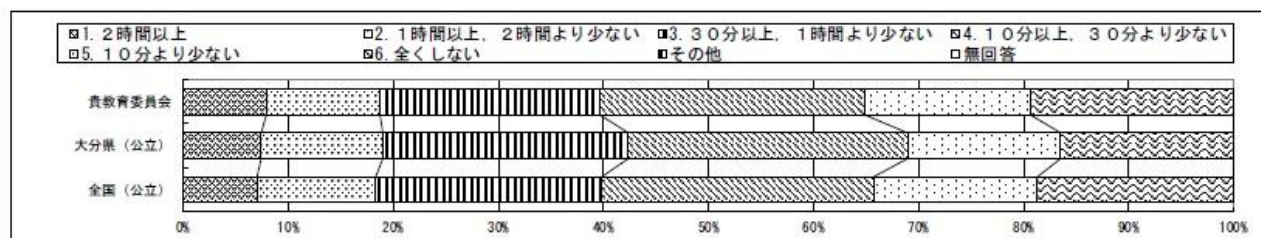


* 県や国に比べ、地域の行事への参加や地域の人との関わりは高いようです。そのため、地域や社会をよくするために何をすべきか考えようとする割合も多いです。

Q 1 5 新聞を読んでいますか



Q 1 6 学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



＊「平日に読書する」割合は、県や国と比べて同程度です。しかし、「定期的に新聞を読むこと」の割合が低いです。

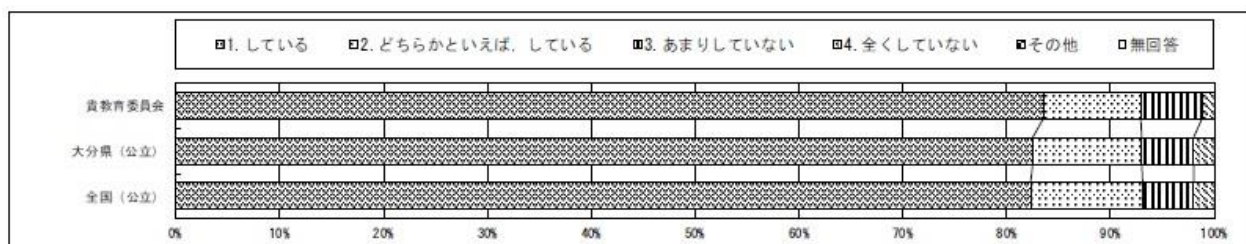
＊学習指導要領が変わり、社会に参画する子どもの育成が望まれています。

地域の関わり方で、特に課題を見つけていくことが望まれますので、新聞の活用をはじめとし、総合的な学習の時間のあり方やコミュニティスクールの取り組み方を見直していく必要があります。

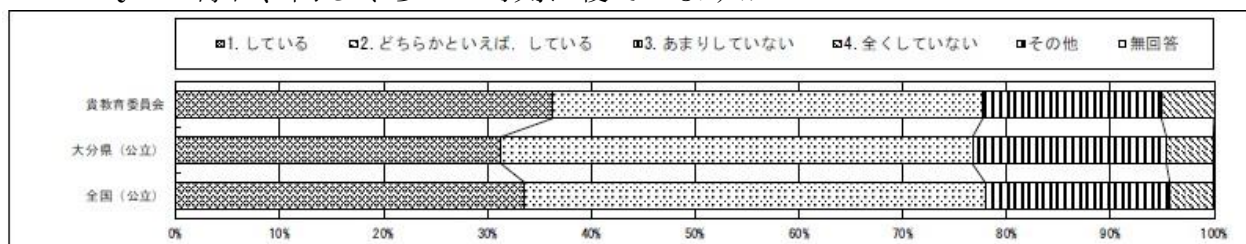
「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学校3年

① 基本的な生活習慣について

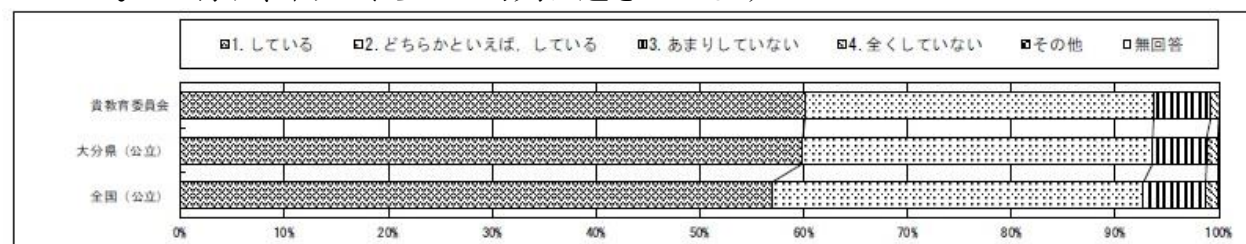
Q 1 朝食を毎日食べていますか



Q 2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



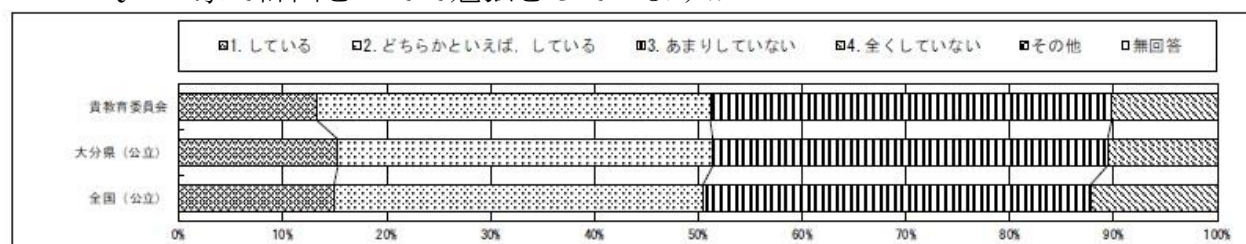
Q 3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



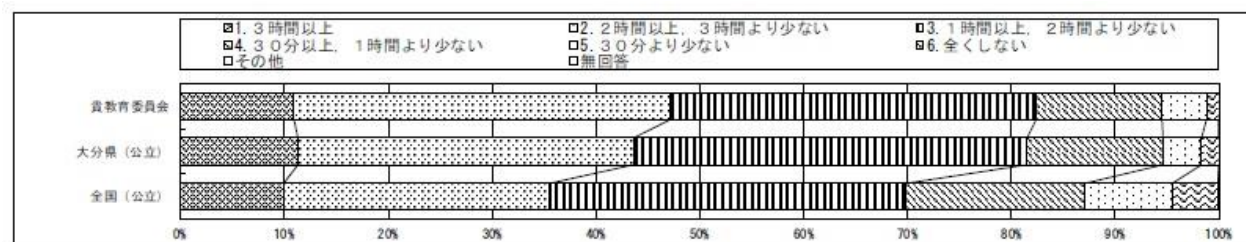
* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようです。

② 学習習慣について

Q 4 家で計画を立てて勉強をしていますか



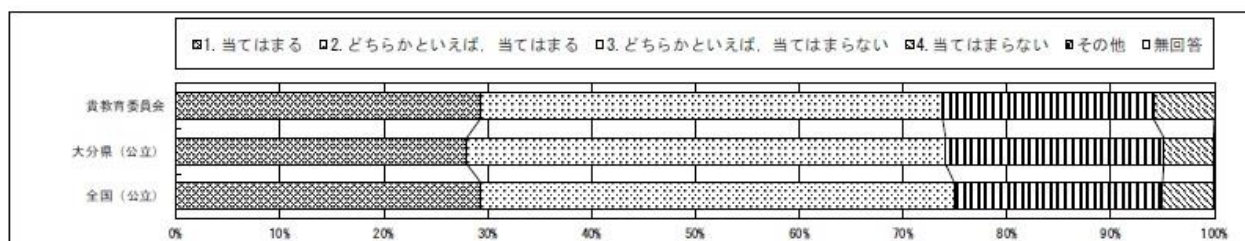
Q 5 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）



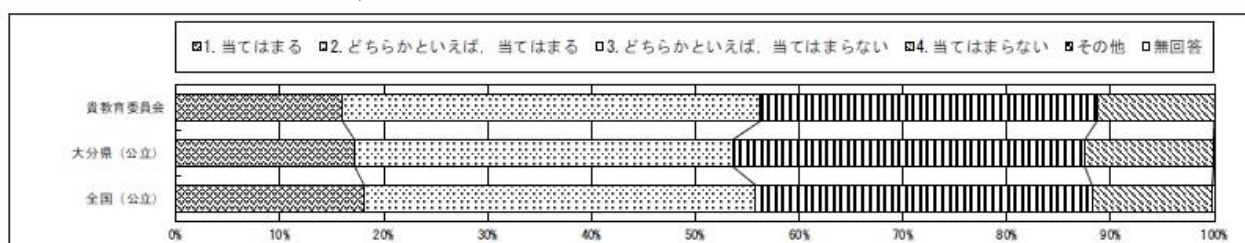
＊自分で計画を立てて学習することの割合が半分程度なので、そこを増やしていくことが必要です。学校の授業時間以外の学習時間については県や全国より若干いいようです。

③ 授業改善について

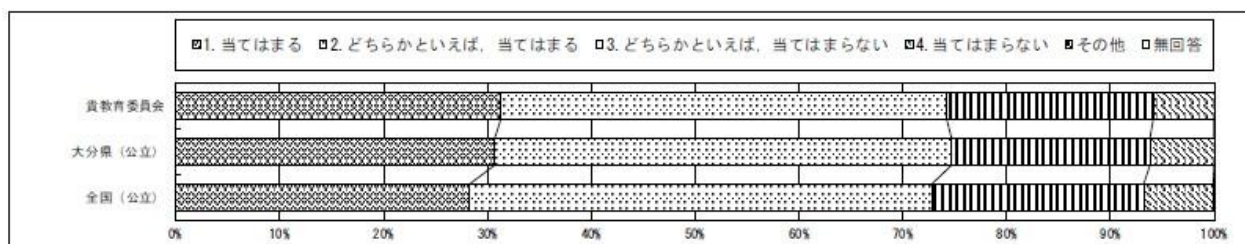
Ｑ６ １、２年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



Ｑ７ １、２年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



Ｑ８ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

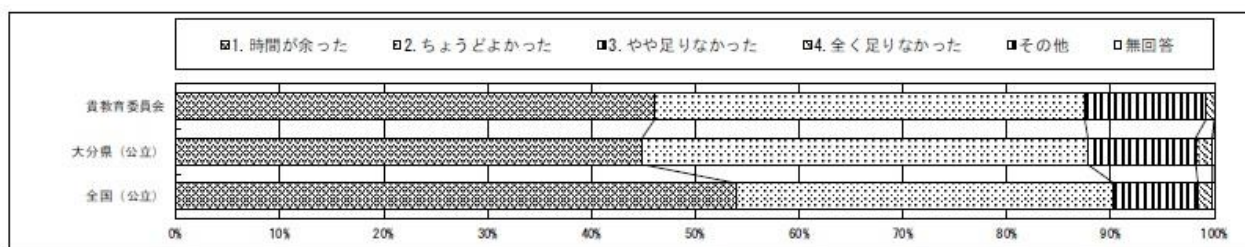


＊ 授業改善に関しては、昨年度から質問項目が変わり、課題の解決に向けて、自主性や協働性を問う質問になりました。特に話し合いの意義や効果を重要視しています。今後の授業改善の重点にしようと思います。

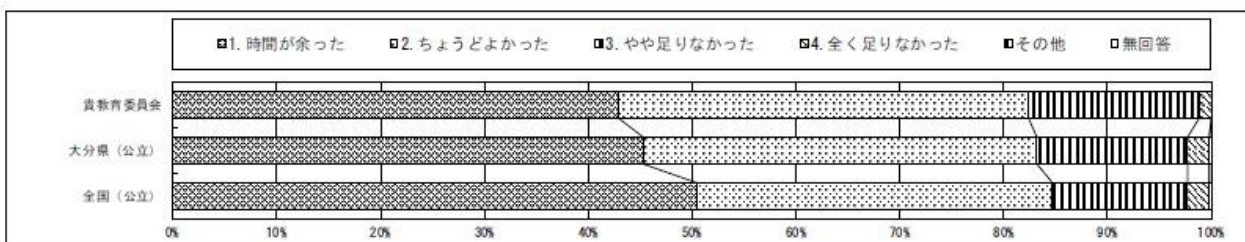
中学生は、話し合いの活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることの意識が比較的高くなっています。

⑤ 解答時間について

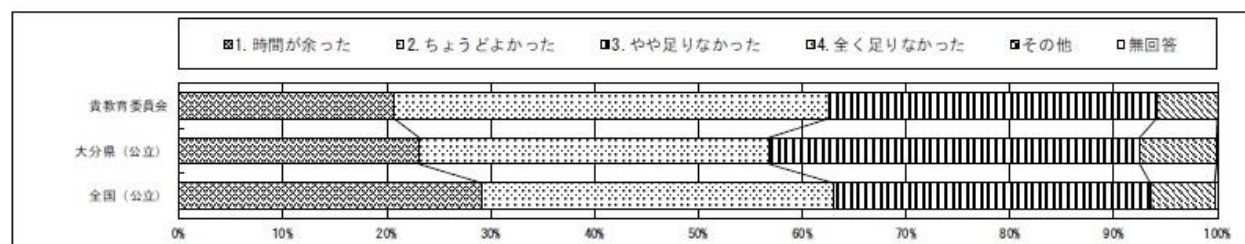
Q 9 解答時間は十分でしたか（国語）



Q 10 解答時間は十分でしたか（数学）



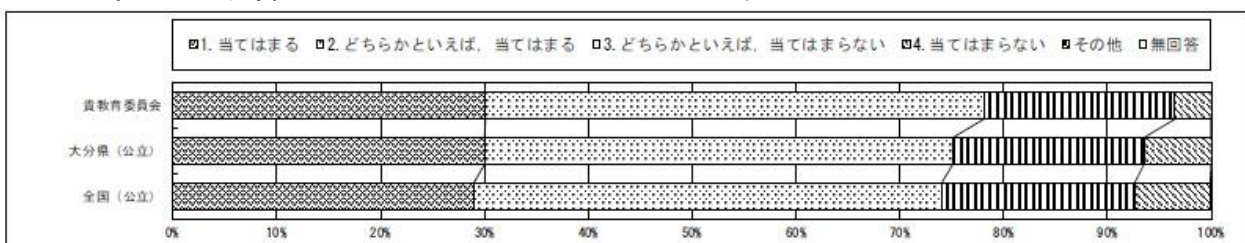
Q 11 解答時間は十分でしたか（英語）



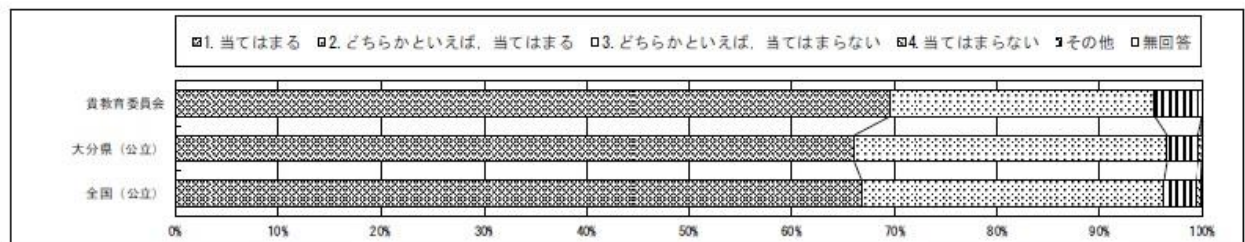
* 調査問題の解答時間については、ほぼ県や全国と同等という結果になりました。

④ その他の項目について

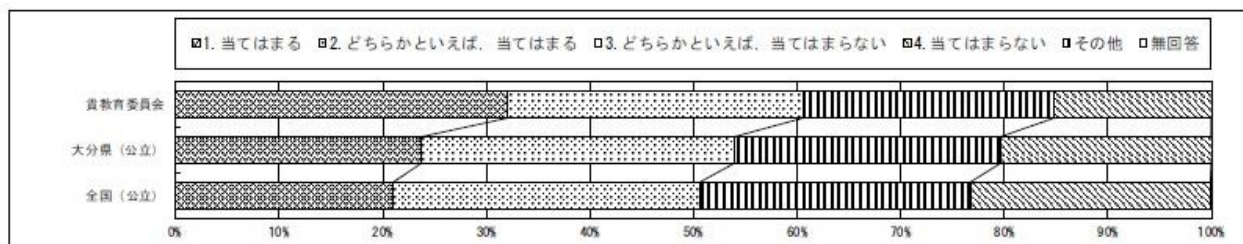
Q 12 自分にはいいところがあると思いますか



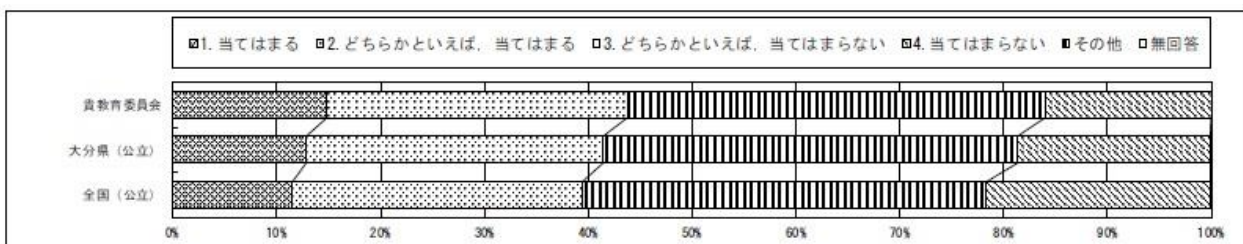
Q 13 学校のきまりを守っていますか



Q 1 4 地域の行事に参加していますか

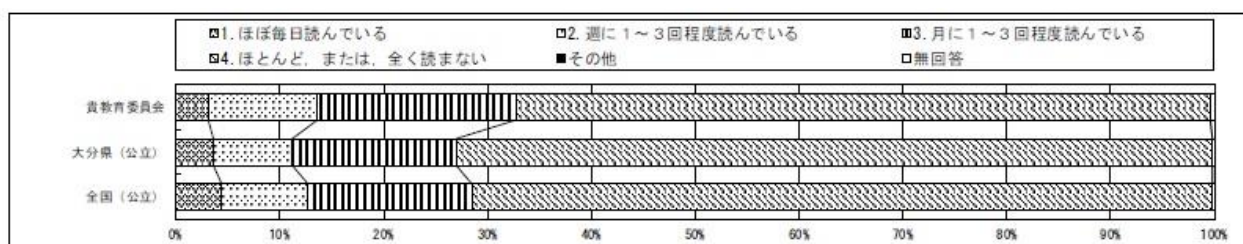


Q 1 5 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

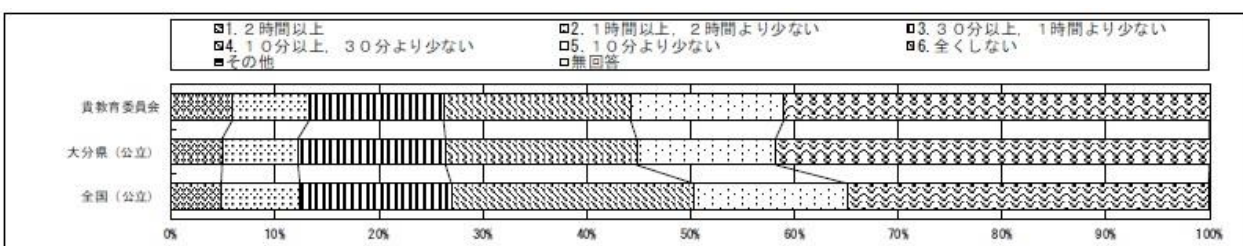


＊自己肯定感や地域への関心も比較的高いことがわかります。

Q 1 6 新聞を読んでいますか



Q 1 7 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



＊新聞を読む子どもは全国とほぼ同じですが、毎日読む生徒は少ない傾向です。また、読書については全く読まない子どもが4割います。

これだけ考えると活字離れともいえそうですが、スマートフォン等で情報を得ている可能性もあり一概にはいえません。

＊学習指導要領が変わり、社会に参画する子どもの育成が望まれています。

地域の関わり方で、特に課題を見つけていくことが望まれますので、新聞の活用をはじめとし、総合的な学習の時間のあり方等を見直していく必要があります。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 由布市の取組の重点に加え、定期的な補充学習を行うこと

学校を中心とした取組は、何年間かはあまり変えるつもりはありません。それというの、市の立てた方針がまだ十分に位置付いているとは言えないからです。ただ、少しずつ成果はみられてきました。今後も学期ごとの重点化を図りながら、取組の充実に向けて精一杯努力を続けます。

実は昨年度末の由布市の独自調査では、もっと課題が多くなると予想されていました。それを3学期の補充学習でかなり改善したと考えられます。しかし言い換えれば、3学期の補充学習に頼らず、定期の補充学習を充実させる方が、効果があると考えられますので、そこを改善していこうと思います。

(2) PDCAサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていこうと思います。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまいります。

気になるのは、年度によって傾向が大きく変わっていることです。これは、学校が組織的、継続的にいろんな取組を行っているのではなく、学年によって取組が異なっている可能性を示しています。（もちろん、学年ごとの雰囲気や様々な実態の差が出てくることはわかっています。）

(3) 学校生活を充実させること。

学校生活、学習面のみならず生活面も充実させる必要があります。

今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた子ども作りにより一層取り組みます。

＊昨年度より、中学校では3校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組み始めました。また、小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組んできました。

内容の骨子としては、

～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善（小学校兼）

② 児童・生徒による授業評価の導入（小学校兼）

③ 組織的な家庭学習の研究（小学校兼）

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ 3中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。